

ワケネギの苗重ならびにトンネル被覆が抽だい発生に及ぼす影響

野口 貴

(江戸川分場)

【目的】

ワケネギの定植時期がその後の抽だい発生に大きな影響を与えることを、これまでに明らかにしてきた。今回は、定植苗の苗重ならびに低温期におけるトンネル被覆と抽だい発生との関係を明らかにし、抽だいを抑制するための資料とする。

【試験方法】

試験1) 苗重と抽だい発生：ワケネギ（配付系統）を2000年9月25日に条間45cm、株間20cm、2条植え（銀マルチ使用）で定植した。定植苗は苗重をA(31g)、B(21g)、C(17g)、D(16g)、E(11g)、F(6g)とし（図1）、01年5月9日に抽だい発生を調査した。

試験2) トンネル被覆とワケネギの生育および抽だい発生：00年9月25日定植のワケネギ（府中市K氏圃場）に、12月7日から01年3月14日まで、ユーラックカンキ2号を用いてトンネル被覆して栽培した。栽植距離は条間45cm、株間20cmの2条植えで白マルチを使用。01年4月10日に収穫し、生育状況を調査した。

試験3) トンネルの被覆時期と抽だい発生：01年9月18日にワケネギ（配付系統）を慣行に準じて定植し、ベルツーク900Nをトンネル被覆した。被覆期間は約50日間とし、開始時期を01年11月7日、同16日、同27日、12月6日、同17日、同27日とした。なお、対照区として無被覆および01年11月7日～02年2月18日（全期間）被覆の処理区を設けた（表1）。02年4月24日に抽だいの発生状況を調査した。

【成果の概要】

1) 苗重と抽だい発生の関係を見ると、苗重11gの苗（E）で抽だい分けつ数が6.3本であったのに対し、苗重31g（A）では3.5本となった（図2）。重量のある苗ほど抽だい発生が少ない傾向となり、既報の夏ネギ系統とは逆の傾向であった。

2) 被覆区は無被覆区に対し、株重や草丈が増加したが（図3）、抽だい分けつ数とその割合も増加した（図4）。一方、調整重は若干増加したものの、調整歩合は無被覆区の0.55に対し、0.39と低かった（図5）。

3) トンネル被覆区の気温は無被覆区に対し、半旬毎の平均で0.6～1.9℃高く推移した（図6）。各処理区のうち、11月下旬～1月中旬被覆の‘27N-17J’は、無被覆（対照）区に対して抽だい分けつ数が少なかった（図7）。一方、12月下旬～2月中旬被覆の‘27D-18F’は抽だいが増加する傾向がみられた。

4) 以上、ワケネギの抽だい抑制には、定植時期を遅らせる方法（H12技術成果レポート）の他、30g程度の重量の苗を定植することが有効である。また、11月下旬～1月中旬のトンネル被覆（保温）も効果がある。ただし、被覆除去が遅れないよう注意が必要である。

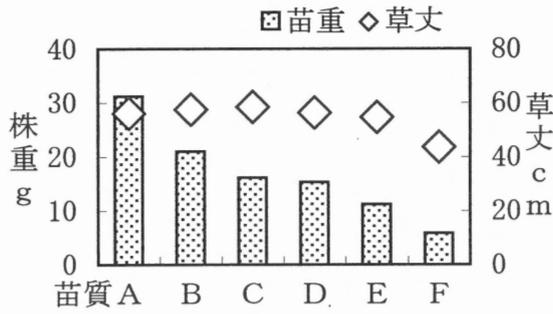


図1 試験1で供試した苗の株重と草丈

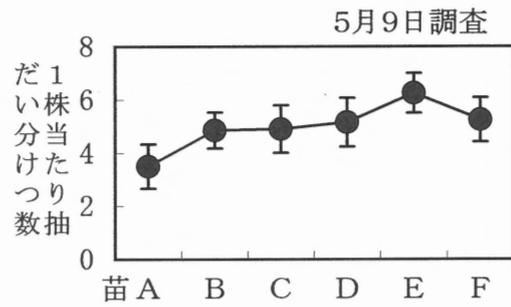


図2 苗質と抽だい発生の関係

(グラフの上下線は95%信頼区間、n=40)

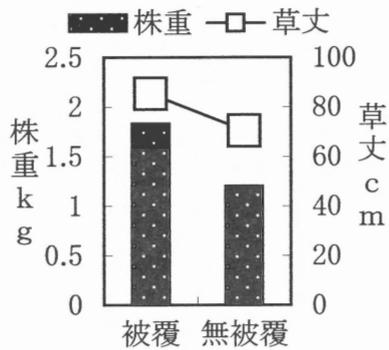


図3 トンネル被覆による株重、草丈への影響
(ユーラックカネ2号にて12/7~3/14まで被覆)

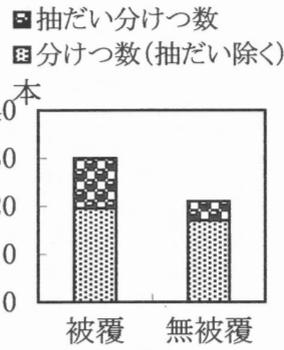


図4 トンネル被覆による抽だい発生への影響

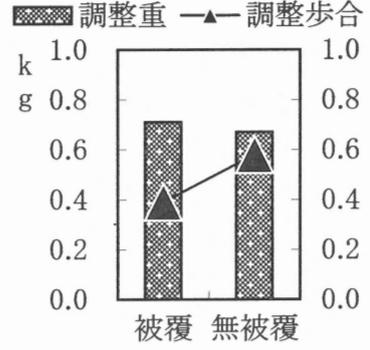


図5 トンネル被覆による調整重、調整歩合への影響

表1 ヘルツキの被覆時期(試験3)

凡例	被覆時期	凡例	被覆時期
7N-18F	01年11月7日~02年2月18日	6D-25J	01年12月6日~02年1月25日
7N-27D	01年11月7日~01年12月27日	17D-7F	01年12月17日~02年2月7日
16N-7J	01年11月16日~02年1月7日	27D-18F	01年12月27日~02年2月18日
27N-17J	01年11月27日~02年1月17日	無被覆	被覆なし

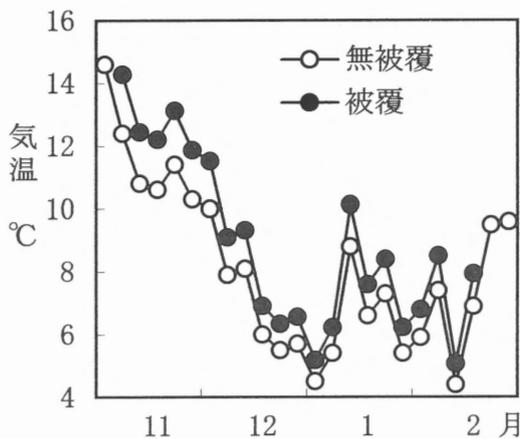


図6 トンネル被覆による気温の推移
(被覆資材はヘルツキ900N)

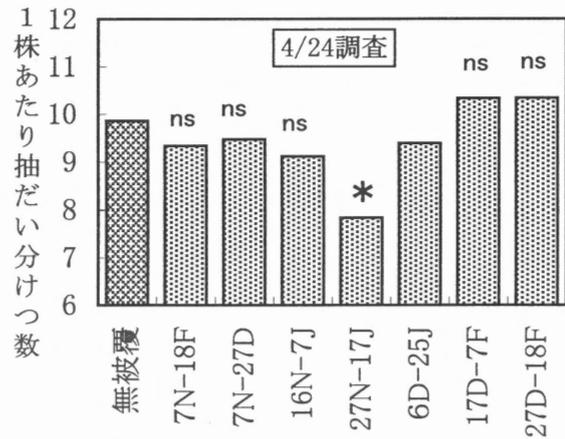


図7 被覆時期の違いと抽だい分けつ数
(*印は無被覆区との有意差(p<0.05, t検定)を示す. ns印は無被覆区との有意差なし)